

県美プレミアム

2014年11月22日[土] - 2015年3月8日[日]



1. 福田美蘭《淡路島北淡町のハクモクレン》2004年

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| 第1部 自然、その脅威と美 | [展示室 6] |
| 第2部 今、振りかえる - 1.17 から | |
| 1) その時、美術館では 1995-2005 | [展示室 1] |
| 2) 中山写真スタジオの「文化財レスキュー」 | [展示室 2] |
| 3) 記憶を伝える - 保存・修復と教育・普及 | [展示室 3] |
| 第3部 10年、20年、そしてそれから - 米田知子 | [展示室 4] |

阪
神
・
淡
路
大
震
災
か
ら

20
年

県美プレミアム

阪神・淡路大震災20年展

阪神・淡路大震災から20年

開催趣旨

2015年1月17日は、阪神・淡路大震災から20年の節目となります。兵庫県立美術館の常設展示室では、この日を含む期間に、コレクションを軸に借用作品も交えて、震災をテーマにした展覧会を開催します。複数の部屋からなる常設展示室の特性を活かして、いくつかの小テーマを設け、震災と美術、震災と美術館について、多角的に取り上げます。

会期等

2014年11月22日(土)～2015年3月8日(日)

休館日:月曜日[11月24日(月・振休)、1月12日(月・祝)は開館、
11月25日(火)、1月13日(火)は休館]、
年末年始・メンテナンス休館(12月31日～1月9日)

開館時間:午前10時～午後6時

※特別展開催中の金・土曜日は夜間開館(午後8時まで)

※入場は閉館の30分前まで

次の日程で第1部(展示室6)の展示替えを行います

前期:2014年11月22日(土)～2015年1月14日(水)

後期:2015年1月17日(土)～2015年3月8日(日)

※1月15日(木)、1月16日(金)は展示室6は展示替えのためご覧いただけません。

会場:兵庫県立美術館 常設展示室(1・2階)

主催:兵庫県立美術館、ひょうご安全の日推進県民会議

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

阪神・淡路大震災から20年

第1部 自然、その脅威と美 [展示室6]

第2部 今、振りかえるー1.17から

1) その時、美術館では 1995-2005 [展示室1]

2) 中山写真スタジオの「文化財レスキュー」 [展示室2]

3) 記憶を伝えるー保存・修復と教育・普及 [展示室3]

第3部 10年、20年、そしてそれからー米田知子 [展示室4]

小磯良平記念室

金山平三記念室

「近現代の彫刻ー語るカラダ、語る人」/「安藤忠雄コーナー」

[展示室5]

観覧料

観覧料	当日	団体	セット
一般	510円	410円	306円
大学生	410円	330円	246円
高校生	260円	210円	156円
65歳以上	255円	205円	153円
中学生	無料		

団体料金……20名以上の料金

セット料金……特別展とのセット割引料金

※障がいのある方とその介護の方1名は各観覧料金の半額
(65歳以上は除く)

※11月22日(土)、23日(日)は「関西文化の日」のため入場無料

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

「阪神・淡路大震災から20年」展に関すること

●第1部担当:出原均・速水豊・小野尚子

dehara.h@artm.pref.hyogo.jp (出原)

●第2部・第3部担当:江上ゆか・小野尚子

egami@artm.pref.hyogo.jp (江上)

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

展覧会構成

第1部 自然、その脅威と美

展示室6

第1部では、震災をとらえるにあたって、まず、わたしたちの自然観に焦点を当てます。自然は人間にとって美であるとともに、震災のように、災いをもたらす脅威でもあります。この両面に焦点を当てた展示をおこないます。

前期：2014年11月22日（土）～2015年1月14日（水）
東山魁夷ほか、コレクション中の絵画・版画（図版2）
後期：2015年1月17日（土）～2015年3月8日（日）
池田遥邨《颱風来》1921年
徳永柳洲《小田原の津波》1923年
岩橋英遠《記録Ⅰ》《記録Ⅱ》1964年
岡本太郎《森の掟》1950年
川端龍子《逆説・生々流転》1959年
片岡球子《火山（浅間山）》1965年
黒田清輝《桜島爆発図（噴煙）》1914年（図版3）
横山操《新山》1958年
ほか、他館からの借用作品を中心にした展示



2.大岩オスカル《雷雨》2002年（前期・後期展示）



3.黒田清輝《桜島爆発図（噴煙）》1914年 鹿児島市立美術館蔵（後期展示）



4.西田真人《瓦礫の街》1996年



5.中山岩太《神戸風景（東亜ホテル）》
1939年頃撮影（1996年プリント） 中山岩太の会蔵



6.中山岩太《神戸風景（元町通り）》
1939年頃撮影（1996年プリント） 中山岩太の会蔵

第2部 今、振りかえるー1.17から

第2部は、1.17から現在そして未来へ、美術作品を受け継ぐという、美術館の原点でもある活動を軸に、さらに3つの小テーマを設けて構成します。

1) その時、美術館では 1995-2005

展示室1

震災から20年を経て記憶の風化が問題となっていますが、美術館とて例外ではありません。美術館の被災状況や、その後の震災関連の取り組みなど、震災から10年の当館の動きを、関連する所蔵品やドキュメントによりたどります。（図版4）

2) 中山写真スタジオの「文化財レスキュー」

展示室2

このパートでは、被災地域の文化財を救出する「文化財レスキュー」を取りあげます。

中山岩太（1895-1949）は日本の近代写真史上、欠かせない写真家の一人です。1995年2月、震災で全壊した中山写真スタジオ（兵庫県芦屋市）から、大型カメラやネガ、ガラス乾板など貴重な作品と資料が救出されました。当館も協力したこの救出活動は、東日本大震災でも注目を集めた「文化財レスキュー」の初の事例ともなりました。救出されたネガからプリントされた写真を含め、中山の代表作や神戸をとらえた風景など、約30点を展示します。（図版5.6）

3) 記憶を伝えるー保存・修復と教育・普及

展示室3

第2部最後のパートでは、少しテーマを広げ、震災に限らず様々な困難をくぐりぬけて受け継がれてきた美術作品を後世に伝える活動について紹介します。日頃、目にする機会の少ない美術作品の保存・修復や、未来を担う子どもたちへと作品を伝える教育・普及の活動がどのようにおこなわれているのか、当館所蔵品の例を具体的に紹介します。

なお、震災後に取り壊された神戸市内の邸宅より救出された北村四海(1871-1927)のブロンズ大作《橘媛》が、修復を経て初めて当館で公開される予定です。

第3部 10年、20年、そしてそれからー米田知子

展示室4

兵庫県明石市出身の米田知子(1965ー)は、「記憶」をテーマに写真作品の制作を続け、国際的に活躍する美術作家です。米田は阪神・淡路大震災から10年に際し兵庫県芦屋市で、被災地に取材したシリーズを制作、発表しました。かつての避難所など震災の生々しい記憶を宿した場所を、しかし透徹したまなざしでとらえた米田の作品は、10年、20年という区切りを超えて時間を開き、静かに訴えかける力に満ちています。第3部では、過去から現在、そして未来へとたどってきた3つのセクションの締めくくりとして、このシリーズ全点を展示します。(図版7.8)

※さらに下記のとおり当館が所蔵する名品の展示も行います。

小磯良平記念室

金山平三記念室

それぞれの代表作を中心に展示します。

「近現代の彫刻ー語るカラダ、語る人」/ 「安藤忠雄コーナー」

展示室5



7.米田知子《空地Ⅱー市内最大の被害を受けた地域》
2004年 国立国際美術館蔵
copyright the artist courtesy ShugoArts



8.米田知子《教室Ⅰー遺体仮安置所をへて、震災資料室として使われていた》
2004年 国立国際美術館蔵
copyright the artist courtesy ShugoArts

関連事業

学芸員によるギャラリートーク

- 11月22日(土) 午後4時30分～(約40分) 展示室6(前期展示)
12月6日(土) 午後4時～(約40分) 展示室1・2・3
1月18日(日) 午後4時～(約40分) 展示室6(後期展示)

参加無料・要観覧券

こどものイベント

「真冬の寒風に挑む前衛風づくり」

1月18日(日) 午前10時30分～午後3時30分 アトリエ2
定員30名 要事前申込(こどものイベント係 TEL.078-262-0908)

歴史資料ネットワーク+兵庫県立美術館コラボ企画

「あなたにも救える!水損資料保全ワークショップ-写真と紙資料-」

津波や風水害で濡れた写真や文書などの、誰にでもできる応急処置を体験するワークショップです。

1月24日(土) 午後3時30分～5時 アトリエ2 定員35名(当日先着順)

講師:吉原大志・東野将伸(歴史資料ネットワーク)、
横田直子(当館学芸員)

阪神・淡路大震災20年・語り継ぐこと/リレートーク vol.4

救うこと、残すこと-「作品」と「思い」

2月21日(土) 午後4時～5時30分

レクチャールームおよび展示室 参加無料・要観覧券

阪神・淡路大震災20年の節目に、被災地エリアの館での震災関連事業として、各館学芸員が会場をリレートーク形式でつなぎ震災を語り継ぎます(連携館:明石市立文化博物館、芦屋市立美術博物館、C.A.P.、神戸アートビレッジセンター、神戸ファッション美術館、神戸ゆかりの美術館、デザイン・クリエイティブセンター神戸、BBプラザ美術館/10月5日現在)。

お話:大槻晃実(芦屋市立美術博物館学芸員)、江上ゆか(当館学芸員)

修復担当学芸員によるギャラリートーク

3月7日(土) 午後4時～(約40分) 展示室3 参加無料・要観覧券

ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー

会期中の金・土・日 午後1時～(約45分)
エントランスに集合 参加無料・要観覧券

同時開催の展覧会

阪神・淡路大震災20年展
だまし絵Ⅱ
10月15日(水)～12月28日(日)

阪神・淡路大震災20年展
フェルディナント・ホドラー展
1月24日(土)～4月5日(日)

チャンネル5 木藤純子 Winter Bloom
12月6日(土)～12月21日(日)

※12月22日(月)には屋外から見える特別展示を行います。

横尾忠則現代美術館での同時開催※

阪神・淡路大震災20年展
記憶の遠近術～篠山紀信、横尾忠則を撮る
10月11日(土)～1月4日(日)

阪神・淡路大震災20年展
横尾忠則 大涅槃展
1月24日(土)～3月29日(日)

※特別展又は、県美プレミアムのチケット半券のご提示で、団体割引料金でご覧いただけます。(詳細はHPなどでご確認ください)

交通案内

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分

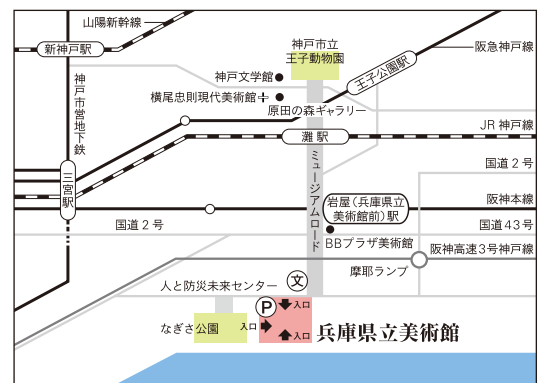
阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分

JR三ノ宮駅南から神戸市バス(29・101系統)・阪神バスにて約15分 HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場:乗用車80台収容・有料

※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

※団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



阪神・淡路大震災から 20 年

2014 年 11 月 22 日 (土) ~ 2015 年 3 月 8 日 (日)

広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 電話 (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	作家名・作品名・制作年 など
1	福田美蘭 《淡路島北淡町のハクモクレン》 2004 年
2	大岩オスカー 《雷雨》 2002 年
3	黒田清輝 《桜島爆発図 (噴煙)》 1914 年 鹿児島市立美術館蔵 (後期展示)
4	西田真人 《瓦礫の街》 1996 年
5	中山岩太 《神戸風景 (東亜ホテル)》 1939 年頃撮影 (1996 年プリント) 中山岩太の会蔵
6	中山岩太 《神戸風景 (元町通り)》 1939 年頃撮影 (1996 年プリント) 中山岩太の会蔵
7	米田知子 《空地 II - 市内最大の被害を受けた地域》 2004 年 国立国際美術館蔵 copyright the artist courtesy ShugoArts
8	米田知子 《教室 I - 遺体仮安置所をへて、震災資料室として使われていた》 2004 年 国立国際美術館蔵 copyright the artist courtesy ShugoArts

※上記画像を媒体掲載される際には、記載の作家名・作品名・制作年などを必ず入れてください。

※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。ご了承ください。

※トリミングおよび文字や他のイメージを重ねることはできません。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ 『 』 TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券 (最大 5 組 10 名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)		組	名分希望

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD)、URL などを、上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いいたします。

※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。